

専念寺通信

六月号 (NO. 118)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

今年も一年のまんなかの月、水無月がやってまいりました。梅雨入り宣言も間近といった日々です。みなさま、おかわりなくお過ごしでいらっしゃいますか。

☆ 大施餓鬼会法要

5月30日、大施餓鬼会法要が、無事、とり行なわれました。空模様の安定しない日曜日



でしたが、受付開始から法要終了後まで、雨が降らず、おおぜいの檀家さまにおいでいただき、にぎやかにとどこおりなく法要をとりおこなわせて頂きました。今年は全部で199名の方がご参加くださいました。毎年、出席伺いの締め切りの2週間後くらいまで、返信葉書がとどき、受付名簿作成やら住職のお塔婆書きやらにおおわらわです。定時の11時に、大玄関内の鐘が打ち鳴らされ、浄土宗東京教区寺院の住職8名と専念寺住職による読経がはじまりました。ことしも、本堂内、本堂前のテント席、そして書院まで檀家さまでいっぱいになりました。昨年より表白(ひょうびやく)の読みあげ速度をゆっくりにして、檀家さまのお

名前や戒名が聞き取りやすいようにと住職はつとめておりましたが、みなさま、読経の声や読み上げの声は聞き取ることができましたでしょうか…? 今年ではできるだけ写真を撮影しようとしてみましたが、厳粛な儀式のさいちゅうにカメラを出すことがむずかしく、本堂内一枚と法要後の何枚かを掲



載させていただきます。みなさま、法要を終えられるとゆったりとした本当にいい表情をしていらっしゃいます。住職や私も一同はそのようなみなさまの顔を見るのが何よりの喜びです。みなさまが帰ったあと、欠席なさった方のお塔婆を一本、一本、お立てして、一年に一度の大法要は終わりました。

毎年、5月のおわりの専念寺墓地は美しい供花で、なんとも夢のような場所になります。施餓鬼会法要の出席者が檀家さま全体の数割程度、というお寺の話聞くにつけても、この専念寺の檀家さまの篤い信仰、亡くなった方を思いやるお気持ちが私共の誇りです。これからも、みなさまの熱心な思いにささえられ、励まされながらつとめていきたいと思ひます。

☆ **小さなお知らせ** : この4月、文京区音羽にあるNPO法人「幼い難民を考える会」と知り合う縁がありました。アジアの、とくにカンボジアの難民の子供たちを支援しよう、出稼ぎに行ってしまう父・夫を待つて過ごす女性たちに織物などを教えて、製品を日本でバザーのかたちで売り、支援しよう、という主旨です。設立30年という堅実なこのNPOの集まりに6月のはじめに行つてまいりました。キリスト教系以外に仏教系の人たちも協力しており、非常に多くのボランティアがきびきびと立ち働く、実に気持ちのいい集まりでした。私たち日本はアジアの東に位置しています。少しずつ、アジアのさまざまな国にも目を向けたいと思ひ、また、無償で働く多くの若い人たちに接し、ほんの数時間でしたが、いろいろなことを考えさせられました。会場出口にある「ありがとう」の言葉を掲載させていただきます。このNPOの写真集を玄関に置いておきますのでお墓参りの際にご覧ください。季節のかわりめ、どうぞ皆さまくれぐれもご自愛ください・・・。平成22年6月1日 大黒

